

はじめに

本報告書は、国土交通省国土技術政策総合研究所のプロジェクト研究として、平成14年度に着手し、平成16年度に終了した「自然共生型流域圏・都市の再生」の研究開発成果をとりまとめたものである。

人間が生活を営む都市は、その都市を含む流域圏における水循環・物質循環系や生態系といった自然のシステムに依存し、これら自然システムから多大な恩恵を受けてきた。しかしながら、20世紀後半に生じた急激な都市化、経済発展、大量消費型へのライフスタイルの変化等は、水循環・物質循環系や生態系等に対する多大なインパクトとなり、自然のシステムは変調を来し、これにより河川や湖沼等の水環境の悪化、動植物の減少、ヒートアイランド現象等様々な問題が生じるに至っている。

このような問題を根本的に解決し、持続可能な社会を構築するためには、流域圏の視野から水循環・物質循環等の自然システムを再生し、人が自然の恩恵を享受できる自然共生型の都市・国土を形成する必要がある。

本プロジェクトでは、水循環・物質循環系の健全化、生態系の保全・再生、ヒートアイランドの解消等自然共生型国土（流域圏・都市）形成に向けたプロセスを提案するとともに、このようなプロセスや取り組みを支援するための、自然共生型国土形成政策検討ツールの開発、及び自然共生型国土形成技術の開発を行うとともに、ケーススタディ流域において、自然共生型国土形成のための政策シナリオの検討を行った。

本プロジェクトで開発された政策検討ツールについては、ケーススタディによる検討とあわせて、公表・配布することにより、様々な地域における国土管理への適用が図られる。また、自然共生技術についても、現場の特性に応じた必要な改良等を行った上で、幅広く活用していくものである。国土交通省内での活用はもとより、自治体等においても本成果を活用することを期待する。

平成17年12月
環境研究部長
福田 晴耕